

おうみネット

2015
96
Winter

Ohmi Net | ●発行日 / 2015年12月1日 ●発行所 / 公益財団法人 淡海文化振興財団

① 寄付～それぞれの思い～

世界みんなが共に生きるために…お互いを思いやる心を育み切磋琢磨すべし

株式会社ナカザワ 代表取締役社長 中澤 実仟盛さん

「認定NPO法人 e ネットびわ湖高島」の取り組み

⑤ おうみの市民と企業が **ともに Grow**

親は親、子は子で過ごせるようなスタイルを目指して

Grow 02

障害児・者支援

特定非営利活動法人
滋賀自閉症研究会
たんぽぽ

愛荘町初のグループホームを運営

Grow 01

高齢者支援

特定非営利活動法人
きずな

社会貢献する「世間よし」企業紹介

Grow 04

世間よし

フジノ食品株式会社

子育て中の母親が気軽に集い、交流できる居場所づくり

Grow 03

子育て支援

子育て応援団体
「CHEERS STATION」

Grow



Ohmi Network Center

淡海ネットワークセンター

公益財団法人 淡海文化振興財団

「寄付」～それぞれの想い～

淡海ネットワークセンターが運営する「未来ファンドおうみ」は、企業などから地域への想いを寄付として受け取り、公益性、社会性、継続性の高い市民活動を実施する団体へ助成しています。

2015年度から新たに「未来ファンドおうみ」に株式会社ナカザワグループさんの寄付による「ナカザワNEOフレンドシップ基金」が加わり、多文化共生の地域づくりを目指した活動に助成しています。

今回は、株式会社ナカザワグループの代表取締役社長 中澤 実仟盛さんから、寄付への想いをご寄稿いただきました。また、「ナカザワNEOフレンドシップ基金」を採択された大津市の市民活動団体「日和」さんには、寄付が活動にどのように活かされているかをお聞きしました。

更に、高島市においてウェブサイト等を活用して寄付を募り、高島市内の市民活動団体を対象に2017年までに市民活動基金の創設を目指しておられる「認定NPO法人eネットびわ湖高島」の理事長・仁賀 定夫さんには、同法人の取り組みについて伺いました。

世界のみんなが共に生きるために
お互いを想いやる心を育み切磋琢磨すべし

ナカザワNEOフレンドシップ基金

株式会社ナカザワ 代表取締役社長

中澤 実仟盛さん

我が社は二〇一四年一月にタイムステーションNEO(時計専門店)をベトナム・ホーチミンに出店したのを皮切りに、同年四月中国・蘇州に、更に六月にはカンボジア・プノンペンに出店しました。おかげさまで成績は順調に推移しています。

しかしながら出店までに携わった先駆者は大変な苦勞を重ねて来ました。特に出店までの現地調査は何も分からず手探りで不安な状況だったと聞いています。しかし現地の方々の協力により難問が解決でき、今の姿があります。また現地で採用した外国人社員を日本で教育し、時計知識の習得や日本のおもてなしの会得のためにも担当者は大変な苦勞を致しました。でもその甲斐がありその人たちが店を支えてくれています。いずれにせよ商売とはいえ、お

金だけに関わらず、やはり人とのつながりが重要だと気付かされました。各国で私の娘や従業員がお世話になったことを考えると、何か恩返しをしなくては、と「ナカザワNEOフレンドシップ基金」を立ち上げました。

日本に来てくれた外国人社員も異国の生活は相当大変だったと思います。特に病氣や怪我などの体に関わることは言葉抜きでは解決せず、医療通訳の役割が重要だと専門家の方からお聞きしました。もちろん、普段の生活の中にも衣食住に関わることやゴミの分別など、簡単に思えることも異国では大変らしいです。

そんな折、淡海ネットワークセンターから「未来ファンドおうみ」のことをお聞きし、それなら何かお手伝いできないか相談し、多文化共生の地域づくりを応援して

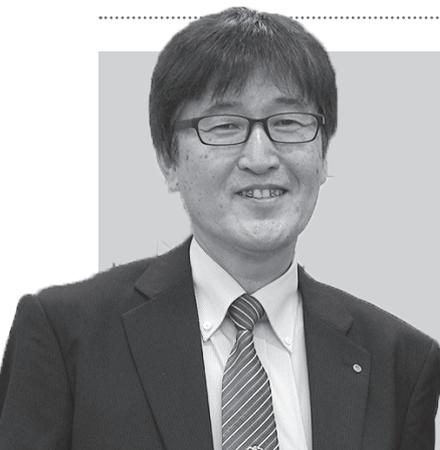
はと提案いただきました。内容については私が思っていました何か恩返しをしたいとの思いにぴったりに当てはまり、早速基金設立に向け動き出しました。

この基金は多文化共生の地域づ

なかざわ 実仟盛さん

●プロフィール●

1957生まれ。大学を卒業後、1980年に父親の創業した中澤時計店に入る。1986年、「家業から企業へ」を信念に株式会社ナカザワを設立。平和堂甲西中央店(滋賀県湖南市)に出店。1988年にはHOYAレンズ関西工場(甲賀市水口テクノパーク内)の竣工と同時期にHOYAのショールームを兼ねた県下最大規模の本店をオープン。以降ショッピングモールを中心に全国に眼鏡店、時計店を展開。海外にも視野を広げ、2014年から海外展開にも乗り出している。



くりが滋賀県下に展開していくことを目的としています。基本は滋賀県下の各地域で国籍や民族などの異なる人々が互いの文化の違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら共に生きていくために起こる様々な地域社会の課題に取り組んでいる市民活動団体などの支援として使っていただきましたということことです。

果たして私の思いが伝わるかと心配しておりましたが、八つの団体からのプレゼンテーションを受け、六団体に活動をしていただけたことになりました。内容は日本語教室的なものもありますが、少しでも言葉の壁を超えてお互いを思いやる心を育む一助になったらと思います。

まだ活動中で結果は出ていませんが、近日中に各団体さんを訪問し、その成果を実感したいと思えます。我が社の海外展開から始まったことですが、十年後、二十年後の世界を考えると、みんなが共に生きることの大切さを改めて感じ、そのためにも微力ですがお手伝いできればと思います。

Essay. I
市民活動をサポート！

「つなぐ」
ステーションをめざして！

あいこうか市民活動・ボランティアセンターは2012年5月に甲賀市が市民活動とボランティアの支援を目的に設立、甲賀市社会福祉協議会が指定管理を受け、5名(シェアスタッフ含む)で運営しています。

甲賀市はどちらかと言えば、テーマ型(NPO等)の活動より、地縁型と呼ばれる自治会や自治振興会(まちづくり協議会)の活動が活発に行われ、また500名余りの個人や200のボランティアグループも盛んに活動しています。

このような状況から、ニーズに対応した各種講座、地域の人材を活性化する研修会や講座、市の協働提案事業支援、地域福祉を促進する取り組み(小規模多機能自治など)も担い、市民が主体となった住民自治活動などあらゆる市民活動の支援を行っています。

市民のニーズに沿った中間支援センターとして、人と地域と行政を「つなぐ」、「ここにきたら、わかる。ここにきたら、つないでくれる」そのようなステーションをめざしています。

あいこうか市民活動・ボランティアセンター

大平 正道(おおひら まさみち)さん



■ナカザワNEOフレンドシップ基金採択団体

日和(ひより)

「助成金を頂いて、沢山のことが
できるようになりました」



2006年の設立以来、大津市内の外国籍の子どもを対象に学習支援や交流の場作りを行ってききましたが、年間予算は会費と助成金を合わせて多い時でも5万円弱という状況でした。今年度はナカザワNEOフレンドシップ基金から助成金を頂き、今までの活動の内容が広がりました。

従来の学習支援教室開催では、4月から9月にかけて毎週土曜日、19回教室を開催し、参加人数は延べ76人にもなりました。また交流イベントでは追加事業として5月には「新年度交流会」を開催し、11月には「高校見学会」を実施する予定です。

<主な活動地> 大津市瀬田公民館
TEL: 077-534-9493(事務局 深尾方)
E-mail: hiyori_o2@yahoo.co.jp

認定NPO法人

eネットびわ湖高島

の取り組み

キーワード

○発信し続けて、知ってもらおう
○失敗を恐れず、寄付に限定せず、様々なツールに
チャレンジ・活用する

NPO立ち上げのきっかけ

二〇一一年、仁賀さんが勤務していた中間支援組織が高島市の市民団体を対象に行ったアンケートの結果で、人材、財源、広報の問題がNPOの課題の上位三位に挙がりました。そして年間予算を尋ねたところ、十万から五十万未満と十万未満がそれぞれほぼ三分の一を占める回答となりました。このことから仁賀さんは、五万・十万でも助成できれば多くの市民活動団体が抱える財源の課題を解決出来るのではないかと、自ら民設民営の中間支援組織となるNPOを立ち上げました。

高島市のファンを増やし寄付へと繋ぐ様々な取り組み

「高齢化がすすむ高島市のファン

を増やす事で寄付へと繋ぎ、それを

財源として琵琶湖に注ぐ総水量の

約三十八%の水源である高島市の

森林の健全な保全管理を行い、琵琶

湖を守る。その事が下流域に住む

約一四五〇万人の暮らし環境の保

全にもつながる」との信念で、高島

市のファンを増やす取り組みを始

めました。幸いにも高島市内には、

「海津大崎の桜並木」(日本のさくら

名所百選)など奥山から琵琶湖に至

る豊かな自然や風景が十四もの「〇

〇百選」に選ばれ、また、国指定・県

指定の文化財や天然記念物などが

数多くあります。

同NPOの運営するウェブサイ

ト「びわ湖源流ドットコム」は、高

島市の情報ポータルサイトとして

観光だけでなく豊かな自然、歴史・

文化など高島の魅力を広く全国に

発信し、同時に魅力に賛同いた

いた方から寄付を募る仕組みも設けています。このウェブサイトに、Google社がCSR活動の一環として行っている非営利活動団体の活動を支援するGoogle Ad Grantsの利用が今年二月に許可され、一ヶ月一万ドル(約二二〇万円)にもものぼるネット広告料が無料で利用出来るようになりました。

えるまでになりました。日常の活動の中では、機会を捉えては活動の趣旨を説明し、寄付の振り込み用紙を配るなど地道な活動を続けています。こうして集まった寄付はホームページ上の「寄付受け入れ実績」で毎月公表しています。

また六月からは一般の人達がネット上でクリックするだけで、協賛企業から支援金を受けられる「gooddo」のサービスへの参加も認められ、同NPO法人のホームページやfacebookで情報を発信し続けた結果、今では一日のクリック人数が百人を越

様々な手法を試すあまり、上手く行かなかった活動もありました。クラウドファンディングREADYFORで支援を募りまし



▲ホームページ「びわ湖源流.com」



認定NPO法人eネットびわ湖高島 理事長
にが さだお
仁賀 定夫さん

●プロフィール●

1948年に当時の高島郡に生まれる。大学卒業後、関東・東北で約15年間勤務の後、高島へUターンし京都の企業に勤める。この間一貫して輸出関連の仕事に従事し、度々の海外出張や海外駐在などで世界各国に足を運ぶ。50才頃から趣味で高島郡内のネイチャー写真を撮り始めたところ、高島には海外の観光地にもひけを取らない豊かな自然や歴史・文化遺産など、多くの魅力があることに気づき、これらを活用したまちおこしに興味を持つ。



◀日本の棚田百選(畑の棚田・上)と
日本の街路樹百選(メタセコイヤ並木・下)

設立当初からNPOの基礎固めとなる様々な活動資金獲得の「種まき」を、自身の持つ情報技術と准認定ファンドレイザーの知識とを総動員して行い、今まさに少しずつ芽がでて、成長する姿が目に見えるようになってきました。「三年間は、頑張ろう！」と自身に課した目標で、高島市の魅力だけでなくNPOの活動内容を発信し

「三年間は頑張るー!」の地道な活動が実り、認知度がアップ

たが、期間内で目標の額には達せずプロジェクトは失敗に終わりました。しかし、NPOの活動を広く知ってもらうにはいい機会でした。

Essay. II
おうみ未来塾リレーエッセイ

たくさんの笑顔に
会いたくて!

11期生 大橋 優子 (おおはし ゆうこ)
グループ: +nico

おうみ未来塾を卒業後の現在は、子供から大人まで少しでも多くの方にアートの楽しさを知っていただく為の講座や湖北でアール・ブリュットを広める活動をしています。昨年は町内でお年寄りを対象にしたふれあいサロンを開設しました。

以前から私は何がしたいのだろう?何の為に活動をしてるんだろう?とよく考えた事があり、はっきりとわからないまま活動を続けていました。ある日小学校でアートのワークショップを行った時、子供たちの「おおっ!」「わあすごい!」などの歓声や素直な笑顔にとっても心が温かくなり、あ!私はこの笑顔が見たくて活動しているのだと、続けて来たからこそ得た気づきがそこにありました。

未来塾の時のグループ、+nico(プラスニコ)は、人に笑顔をプラス出来る活動を目指していました。あの時の想いを胸にこれからも『人を笑顔にする』きっかけ作りを続けていきたいと思っています!



続けた結果、NPOの情報公開プラットフォームとして権威のあるCANPAN FIELDSにおいて最高位の情報公開レベルである五つ星を獲得するなど、情報公開面でも透明性に努め、団体の信用度・認知度もアップしてきました。目標とする市民活動基金創設に向け、失敗を臆することなく今後もチャレンジの日々が続きます。

<団体概要>

認定NPO法人eネットびわ湖高島

滋賀県高島市勝野3003

TEL: 050-3635-9231 FAX: 050-3730-4827

E-mail: info@takashima-e.net

URL: http://www.takashima-e.net

まとめ

寄付に込める思い、寄付を集める思いやチャレンジ、寄付を活かして活動する団体の思いなど、それぞれの立場から寄付にまつわる「思い」を知ることができました。

立場は違っても、それぞれの思いの根底に流れているのは、「みんなが共に生きることの大切さ」のように感じます。寄付を通じて、今まで無縁だったところと繋がりが出来たり、また関心が湧いたり、ひいては社会全体を考えるつながりになるかもしれません。まずは身近なところの「寄付」に目を向け、行動へと繋げてみませんか。

ともに Grow

県内で活躍するNPOや
社会貢献企業を
レポート!

Grow 01 市民 ● 高齢者支援

自閉症スペクトラム児・者が、 地域でいきいきと暮らせる滋賀をめざして



▲日野町に開所した「さくら工房」

発足のきっかけは、滋賀県立小児保健医療センターの療育教室を卒業した自閉症スペクトラム児の親達が、まずは自分達で正しい知識と支援のあり方を学ぼうと一九九六年に勉強会を始めたことでした。その後も親

の会として、会員内外の親達や、教育・福祉関係者等の支援者のニーズに応えるかたちで、親子療育教室や広報誌の発行、セミナーの開催等の活動を重ねてきました。二〇一〇年には取り組みの先駆性が評価され「第二回系

特定非営利活動法人 きずな

理事長●今村 秀子(いまむら ひでこ)
設立●2008年5月
会員●15人(正会員)
連絡先●愛知郡愛荘町長野2380番地11
TEL : 0749-42-8300
FAX : 0749-42-8308
E-mail : gh-kizuna@maia.eonet.ne.jp
URL : <http://www.asahi-net.or.jp/~TK6S-IMMR/>



▲きずな外観

愛荘町初のグループホーム、職員の発案と 創意工夫で今では地域の交流の場に

「こんにちは！」元気な職員さんの声が響く。取材訪問した時、明るく元気な職員さんが多いなあ、が第一印象です。認知症の方々が共に暮らすグループホームを愛荘町に設立して七年になります。愛荘町にはグループホームはなく、今村理事長が看護関係の仕事を経験されていて、何か地域のお役に立てることはないかと考えてNPOを立ち上げ、グループホームを運営するようになりました。

立ち上げまでには様々な困難があり、あの時の方に出会っていなかったらいまの「きずな」は存在しなかったと感慨深くお話しいただきました。設立の場所も、ぼつんと建てるのではなく、住宅地の中に地域の一人として存在したいとのこと、ちょうど住宅開発されていた現在地に設立されました。

今では地域の方々と一緒に夕涼み会や消防訓練を行うなど地域の方々との交流も盛んに行っています。地域の文化祭には利用



▲夕涼み会

は明るく元気な職員さんたちが利用者が喜んでもらえるように考えて行っています。毎月の誕生日会や運動会もあり行事の多いのが「きずな」の特徴です。

グループホームを運営していて、各種関連法令の変更や政府の方針変更でなかなか予定通りに進まないこともどかしいところだそう。今後ますます認知症の方が増える傾向にある中でグループホーム入所を待機される方がおられないようになれど感じました。

(おうみネットサポーター 河林 利明)

子育てが楽しい！ 元気な甲賀のまちを目指す



▲チアーズルーム

子育てサークルCHEER STATION(チアーズステーション)は、地域のスポーツセンターを利用する子育て中の母親二十名によって結成されました。二〇〇三年のことです。当時の水口では、核家族化が進み、子育て

の不安や悩みを相談できずに孤立してしまう母親の存在がありました。そんな母親の心を少しでも軽くできればとの思いから、スポーツセンターの一室を借りて、子育て中の母親が気軽に集い、交流できる居場所づくりを始めたので

社会貢献する「世間よし」企業紹介

フジノ食品株式会社

〒522-8505 滋賀県彦根市東沼波町172-2
TEL : 0749-21-1200 FAX : 0749-30-0556
URL : <http://www.ffdb.jp/>

出張講座を通じて子どもの夢を育み、食文化・食産業の発展に貢献

近畿・東海・北陸で業務用食品の流通事業を展開するフジノ食品株式会社の代表取締役・藤野潔さんに「食の匠の出張講座」について伺いました。

同社は1971年に創業、売り上げは2008年には200億円を超えました。当時、得意先の調理技能者から自身の技能を教え人材を育てたいが機会がないとの声を聞き、取引のある学校と技能者の属する協会の仲介役となり食に関する講座を開き、社会貢献する企業として食の文化や食産業の発展に寄与しようと活動を開始されました。子ども達には単に調理し食べるだけでなく、この野菜は誰がどのように育て何処から来ているか、この魚は何処で捕れるか等、食に関して様々な角度から関心を持ち想いを馳せて欲しい、また食のマナーも学んでほしい、更にプロの職業人の姿を見ることで食に携わる人材が一人でも多く生まれ食産業の発展に繋がり、世界に通用するプロにまで育ててほしいとの想いがあります。



▲「食の匠の食育出張講座」の様子

最後の感想でもまたよに、ぼくは本気でパティシエになりたいです。遊んで言っているわけではありません。しっかり勉強して専門学校に入りたいです。世界一のパティシエになります。世界一になるまで。

▲講座後の感想文

も無料です。プロの技の前では、子ども達はその技に驚き好奇心あふれる真剣な目の輝きに変わります。講座後の感想文には、将来に向けた夢までもがしっかりと描かれていました。

講座を通じて子ども達が食への関心を持つだけでなく、将来に向けしっかりとした目標や夢を持ってくれる事が何よりも嬉しいと藤野さんは語られました。(淡海ネットワークセンター 日下部 純子)

講座は学校からの要望を協力関係にある各協会などに伝え、出来るだけ近江の食材を使いながら学校の調理室で、技能者と同社の社員の指導のもと調理を進めます。食材は、同社が提供、講師の派遣なども無料です。プロの技の前では、子ども達はその技に驚き好奇心あふれる真剣な目の輝きに変わります。講座後の感想文には、将来に向けた夢までもがしっかりと描かれていました。

特定非営利活動法人

滋賀自閉症研究会たんぽぽ

理事長●福永 ナナ子(ふくなが ななこ)
設立●1996年6月(2003年4月法人化)
会員●保護者会員96人 賛助会員87人 団体会員5団体
連絡先●草津市若竹町2-23 ベアハイツ102号
TEL : 077-575-3796 FAX : 077-575-3796
URL : <http://npotanpopo.jimdo.com/> E-mail : tpshiga@gmail.com



▲たんぽぽクラブにて作業に集中する

「より落ち着いて生活を送れるようになり、子どもがやりたいことを実現するためにどうすればよいかと考えるようになりました」と語ってくれました。

賀一雄記念奨励賞」を受賞しました。

毎月開催している親子療育教室「たんぽぽクラブ」では、小学生から成人期までの自閉症スペクトラム児・者が参加し、個々に合わせた遊びや作業を通じて、生活力やコミュニケーション力の向上を目指しています。親達は運営を担いながら、子どもと他者との関わりや、専門家のアドバイスを等から学んでいきます。長年継続して参加してきた会員の菅原さんは、「より落ち着いて生活を送れるようになり、子どもがやりたいことを実現するためにどうすればよいかと考えるようになりました」と語ってくれました。

二〇一四年四月には、成人期となった自閉症スペクトラム者が個別の支援を受けながら生活し作業をおこなう生活介護型事業所「さくら工房」を開所しました。利用者へのニーズに応えつつ、より働く場としての機能の充実を目指していきます。「親も子ども社会で楽しく過ごしながら、最終的には親は親、子は子で過ごせるようなスタイルを目指していければ」と理事長の福永さん。子ども達の成長と共に、悩みを抱える多くの親達への暖かなまなざしを持ちながら、これからも活動は続いていきます。

(おうみネットサポーター 藤村 陽子)

2015年度 笑顔あふれる びわこ市民活動応援基金助成採択団体

子育て応援団体「CHEERS STATION」

代表●安達みのり(あだち みのり)
設立●2003年 会員●100人
連絡先●甲賀市水口町北内貴77
(株)水口スポーツクラブ Well・Be内
TEL : 0748-63-1200
URL : <http://cheersstation.jugem.jp/>



▲チアーズショップ

の4つの事業を展開するまでになりました。

①未就園児親子を対象とした親子広場「CHEERS ROOM(チアーズルーム)」の運営。②手作り雑貨やスイーツ、地域の特産物や生鮮野菜などを販売する「CHEERS SHOP(チアーズショップ)」の開催。③甲賀市内の小児児童をもつ保護者を対象とし、母親支援を目的とした「TUNAGARU(つながる)会」の運営。④母親の就業につながるべく、

した。その輪は次第に地域へと拡がり、現在は、次の4つの事業を展開するまでになりました。と、県内の先進事例を学ぶ講演会や起業のための勉強会を行う学びの場「KIRAMEKU(きらめく)会」の開催。

代表の安達さんは、「お母さんが、気分をリフレッシュして、明るい表情になって帰られるのを見るのが嬉しい。お母さんが元気になることで、親子関係、家庭環境が良くなり、それが地域の活性化に繋がっていくと思います。子育て中のお母さんを温かく見守り、応援し、一緒にステップアップできる環境を作っていきたいです」と、熱い想いを語ってくださいました。

(淡海ネットワークセンター 石黒 みか)

募集

2016年度未来ファンドおうみ助成事業・表彰事業の募集

未来ファンドおうみ助成事業・表彰事業の募集が始まります。新しい基金も誕生しました。募集にかかる説明会も開催いたします。多くの方のご参加・ご応募をお待ちしています。

◇助成事業

- ①おうみNPO活動基金助成
- ②びわこ市民活動応援基金助成
- ③びわ湖の日基金助成
- ④積水化成品基金助成
- ⑤笑顔あふれるコープしが基金助成
- ⑥ナカザワNPOフレンドシップ基金助成
- ⑦げんさん食育NPO基金助成
- ⑧湖国文学活動応援むらさき基金助成

◇表彰事業

日本の元気なきずなプロジェクト基金
淡海のつなぐ、ひろく、みらい賞

◇応募受付期間：2015年12月1日～2016年1月17日
1月17日(日)17時 必着

◇説明会

大津会場※ 12月1日(火)13:30～14:10
県民交流センター(ピアザ淡海)

米原会場 12月9日(水)13:30～15:00
米原公民館

大津会場 12月9日(水)18:30～20:00
淡海ネットワークセンター

水口会場 12月11日(金)13:30～15:00
自主活動センターきずな

草津会場 12月11日(金)18:30～20:00
草津市立まちづくりセンター

今津会場 12月15日(火)18:30～20:00
今津東コミュニティセンター

※12月1日の大津会場は、多文化共生セミナーと同時開催します。

※詳しくは、当センターホームページをご覧ください。
(担当：北村、澤)

イベント

おうみ未来塾第13期
成果発表会・卒塾式

おうみ未来塾は、地域の課題解決に取り組む「地域プロデューサー」が育つ塾を目指しています。18か月間のプログラムでは、1年目は滋賀県のような地域でまちづくりなどの市民による活動を学び、2年目はグループに分かれてフィールドに入り、地域の課題に取り組みます。

今回、卒塾を迎える第13期生のグループ活動成果発表会を行います。「地域プロデューサー」を目指すおうみ未来塾生の発表から、地域づくりや市民活動を進めるヒントを見つけに来てください。皆さまのお越しをお待ちしております。

◇日時：12月12日(土)
13:30～16:20(予定)

◇会場：ピアザ淡海(県民交流センター)2階
207会議室(大津市におの浜1-1-20)

◇発表グループ：キモチカエル@兵主、草津ファン☆プロ、baseOtsu_cross(ベースオツクロス)

◇対象：どなたでも

講座

NPOのための決算書作成講座

◇日時：2016年1月29日(金)
13:30～16:30

◇会場：草津市立まちづくりセンター
309会議室

◇対象：NPO・市民活動団体の経理担当者

◇参加費：500円(1名)

◇定員：40名

◇内容：○試算表作成

○決算業務のスケジュールの立て方

○決算整理

○精算表作成

○決算書作成

※詳細は当センターブログにてご確認ください。

講座

クラウドファンディング
入門セミナー

◇日時：2016年2月13日(土)
13:00～16:00(予定)

◇場所：コラボ21・中会議室1(3F)

◇講師：MaKuaKe 西村 昌広氏
(日本ファンドレイジング協会
準認定ファンドレイザー)

※詳しくは、当センターにお問い合わせ下さい。

編集後記

取材前に私は、「たんぼぼさんは親の会であるのに、なぜNPOとして社会的な活動を続けてこられたのか」を知りたいと思っていました。取材を通じて、それはきっと「社会に対して働きかけを続けることが、巡り巡って子ども達の未来につながるから」なのだろうと感じられ、メンバーの方々の親としての強い思いに圧倒されました。
(おうみネットサポーター 藤村 陽子)

グループホームきずなさんに伺い、今後の福祉施設の在り方を考える機会になりました。地域の中で一緒に歩んでいける施設がとても素晴らしく思いました。各地域にきずなさんのような施設が増えていくことを応援していきたいです。
(おうみネットサポーター 河林 利明)

おうみネット 96

●2015 冬号●



Ohmi Network Center
淡海ネットワークセンター
公益財団法人 淡海文化振興財団

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

- 〒520-0801 大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2階
- TEL 077-524-8440
- FAX 077-524-8442
- http://www.ohmi-net.com
- E-mail:office@ohmi-net.com
- 開館時間／9:00～17:00
- 休館日／月曜日・祝日

●情報交流誌「おうみネット」は登録いただいている県内外の団体・個人のほか、次のところに配布しています。(50音順)

関西アーバン銀行、京都信用金庫、県内公民館、県内公立施設、県内市民活動支援センター、県内社会福祉協議会、県内市役所・役場、県内図書館、県内中学校・高校・大学、滋賀銀行、滋賀県信用組合、滋賀県庁、生活協同コープしが、他

市民活動・人・企業との出会い広がる情報交流誌
「おうみネット」 掲載広告募集中!

- ★発行部数10,000部
- ★県内外の配布先約2,000カ所
- ★1枠(横9.3cm×縦3.5cm)15,000円



詳細は、当センターまでお問い合わせください!

おたがいさまがつながり、活きる。

未来ファンド 個人の気持ち、企業のCSR
おっみ 様々な“志”を地域に支える市民活動へ、
しっかりつなぎます。

寄付をお考えの方、詳しい内容を知りたい方は、
淡海ネットワークセンターにお気軽にお問い合わせください。



この印刷物は大豆油インキを包含した植物油インキを使用しています。